

【投信調査コラム】
日本版ISAの道 その264

NIPPON
INDIVIDUAL
SAVINGS
ACCOUNT

NISAで毎月分配型から運用コストが低い指数連動型へと人気がシフトし、長期投資の姿勢が徐々に浸透している？
2019年4月にNISAではアセットアロケーション型が人気、つみたてNISAではグローバル株ファンドが人気!

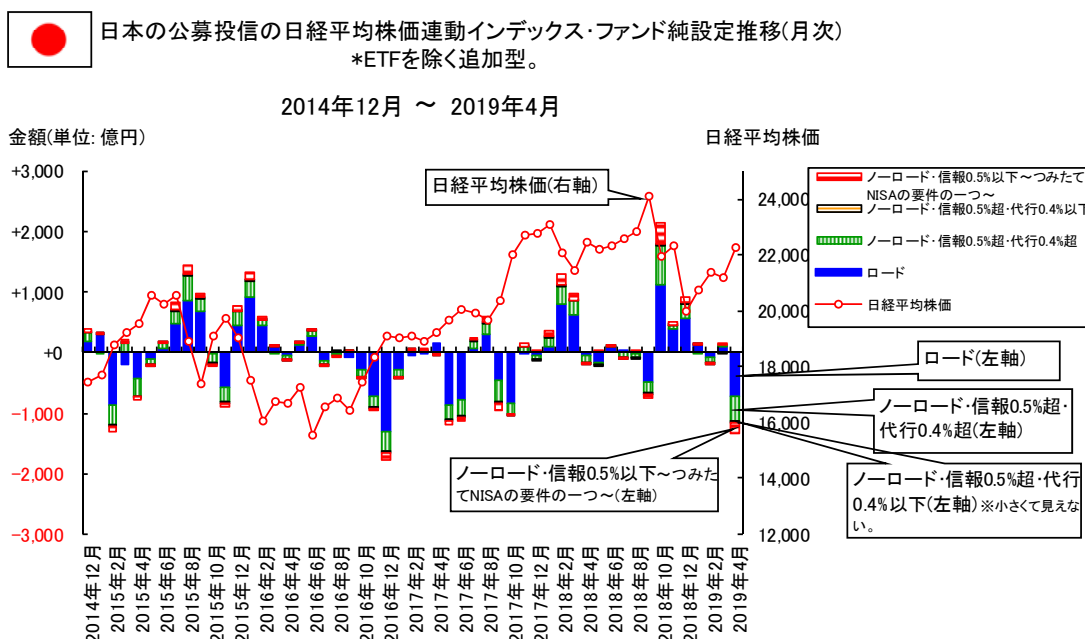
商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISAで毎月分配型から運用コストが低い指数連動型へと人気がシフトし、長期投資の姿勢が徐々に浸透している？

NISA(少額投資非課税制度)は2019年で6年目となったが、NISA口座における投資対象に変化が見られると言う。「個人投資家に『貯蓄から投資』を促す少額投資非課税制度(NISA)のスタートから5年が過ぎ、累計の買い付け額は15兆円を超えた。大手インターネット証券のNISA口座での売買を調べたところ、投資信託は毎月分配型から運用コストが低い指数連動型へと人気がシフトし、長期投資の姿勢が徐々に浸透していることが分かった。」(2019年4月28日付日本経済新聞～URLは後述[参考ホームページ]①参照)と言う。NISAが開始された2014年から毎月分配型が人気だった事は、2014年12月8日付日本版ISAの道 その83で書いた通りだ(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。当時、大手ネット証券各社が公表していたNISA口座の売れ筋ファンド1位も、毎月分配型だった(URLは後述[参考ホームページ]①参照)。

それが今、「毎月分配型から運用コストが低い指数連動型へと人気がシフトし、長期投資の姿勢が徐々に浸透している」と言う。毎月分配型の投信純設定は2019年4月に-1042億円と、24カ月連続純流出で記事の通り。指数連動型はどうだろう？ 下記は日経平均株価連動インデックス・ファンドの月次純設定推移だ(*ETFを除く追加型、ネット証券の売買だけでなく全体)。2019年4月に-1352億円と3年4カ月ぶりの大きな純流出となっている。2018年の年間純設定は+4928億円であり、2019年の年初来(1～4月)純設定は-1276億円だ。「長期投資の姿勢が浸透している」と言うが、足元、「人気」の指数連動型投信からも資金純流出となっている。個別で見ても71本中63本が純流出である。だが、残る8本が純流入で、その内、ロードが2本、そして、ノーロード・信託0.5%以下(つみたてNISAの要件の一つ)が6本となっている。



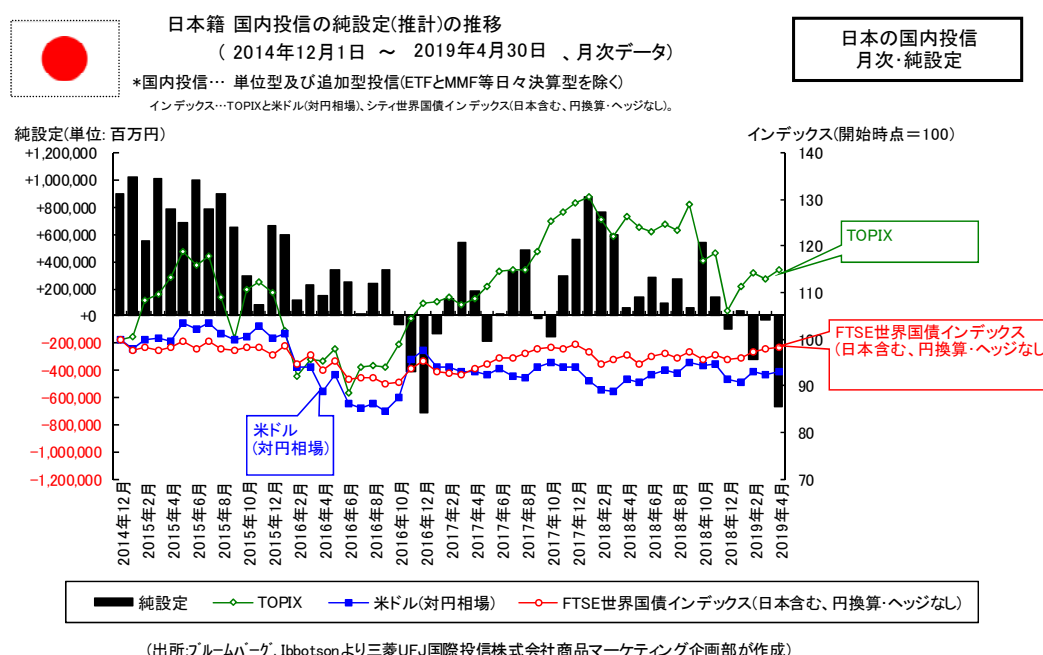
(出所:ブルームバーグ、Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

2019年4月28日付日本経済新聞「NISA5年 投信、指数連動にシフト 買い付け額トップはみずほFG株」だが、これは、つみたてNISA 適格商品となっている指数連動型投信を中心に見ていると思われる(*つみたてNISAで毎月分配型は対象外)。尚、つみたてNISA口座開設者の約7割(65.0%)が20~40歳代で(2018年12月20日付金融庁公表~URLは後述[参考ホームページ]①参照)、3分の1がネット証券を利用していると言う(2018年7月17日付日本経済新聞~URLは後述[参考ホームページ]①参照)。投信の動向、NISAの動向、そして記事についてはしっかり事実を見て判断していきたい。

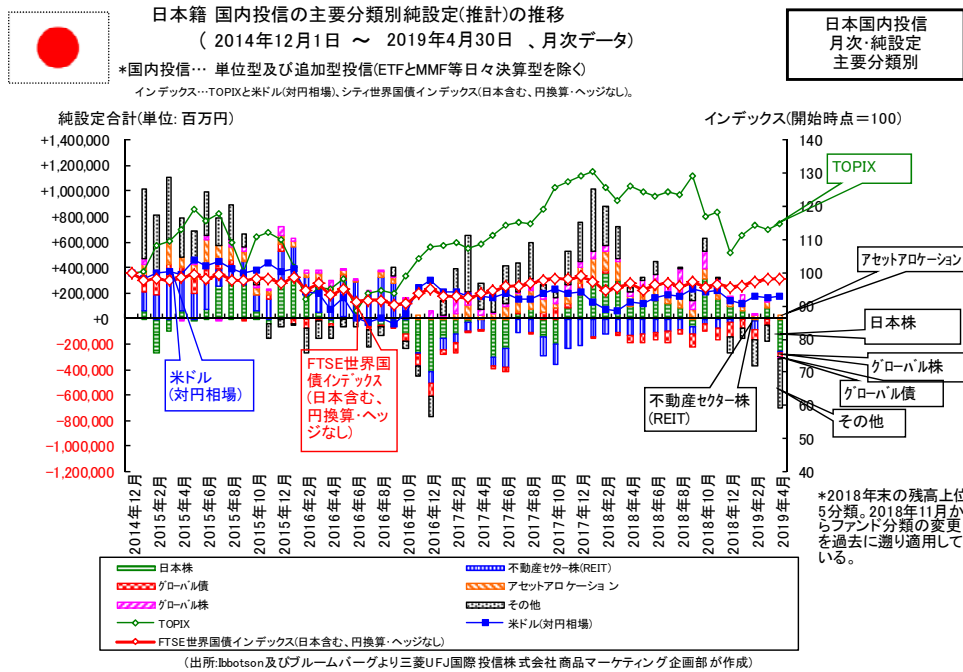
ここで恒例のNISA投信の最新フロー(純設定)を見る。NISA投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分けている。これは日本証券業協会が「NISAを利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)と言っている事も参考としている。そしてNISAの「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、NISAの「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※2参照)で代替する。

投信フロー最新動向~既存投資家はアセットアロケーションが人気~

まず既存投資家(投信全体)を見る。純設定は、最新2019年4月に-6650億円と2016年12月(-7065億円)以来2年4カ月ぶりに大きな純流出だった(←3月-325億円←2月-3215億円←1月+374億円←2018年12月-959億円~14カ月ぶり純流出)。ただ、このうち単位型だけで見れば4月は+18億円と小幅ながら3カ月連続の純流入だったので4月の大きな純流出は追加型によるものだ。



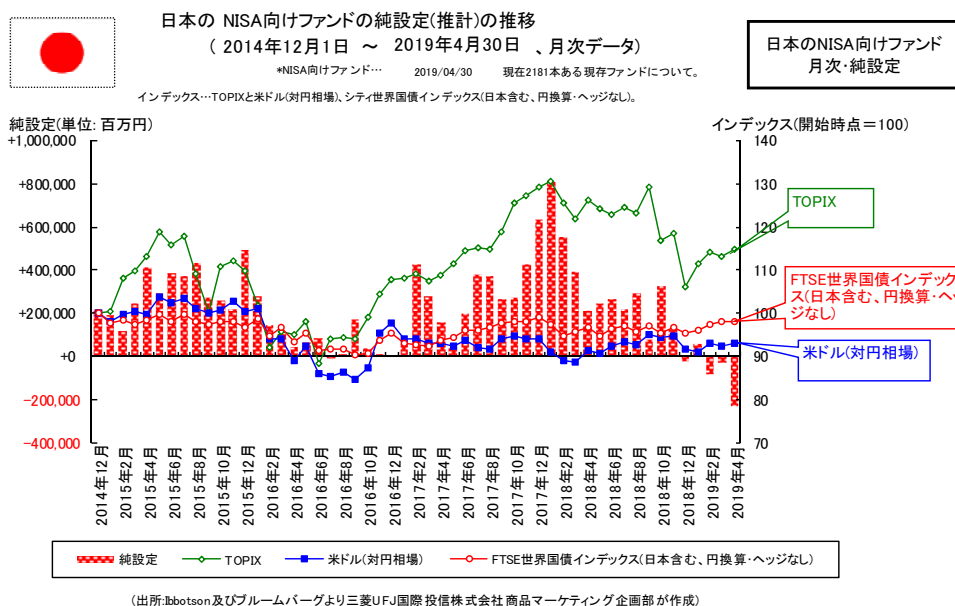
2年4カ月ぶりの大きな純流出となった既存投資家(投信全体)の純設定を、投資対象別で見たものが次頁グラフである(次頁グラフは投資対象/主要分類~※1~に分けて見たもの)。最新2019年4月に最も純設定の大きかったのはアセット・アロケーションその他(前月3月13位)、ヘルスケア株(前月3月6位)、アセット・アロケーション慎重型(前月3月2位)、5位マルチオルタナティブ(前月3月7位)だった。1位のアセット・アロケーションその他は、2018年10月に新規設定された先物取引等の活用によりレバレッジをかけて投資効率を高めるバランスファンドへの資金流入が足元急速に増えている。日本株は、最新4月に-2526億円と、前月3月(+82億円)から一転、2017年5月以来1年10カ月ぶりの大きな純流出となった。



※1: 主要分類…モーニングスター分類で2018年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。ヘルスケア株、マルチオルタナティブ、アジア債、日本債などは「その他」に含む。

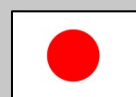
投信フロー最新動向～新規投資家もアセットアロケーションが人気～

次に新規投資家(NISA向けファンド～後述※2参照)の純設定を見る。下記グラフの通り、最新2019年4月は2293億円と3カ月連続の純流出でNISA投資が始まった2014年1月以降で最も大きな純流出(←前月3月-316億円←2月-851億円)。

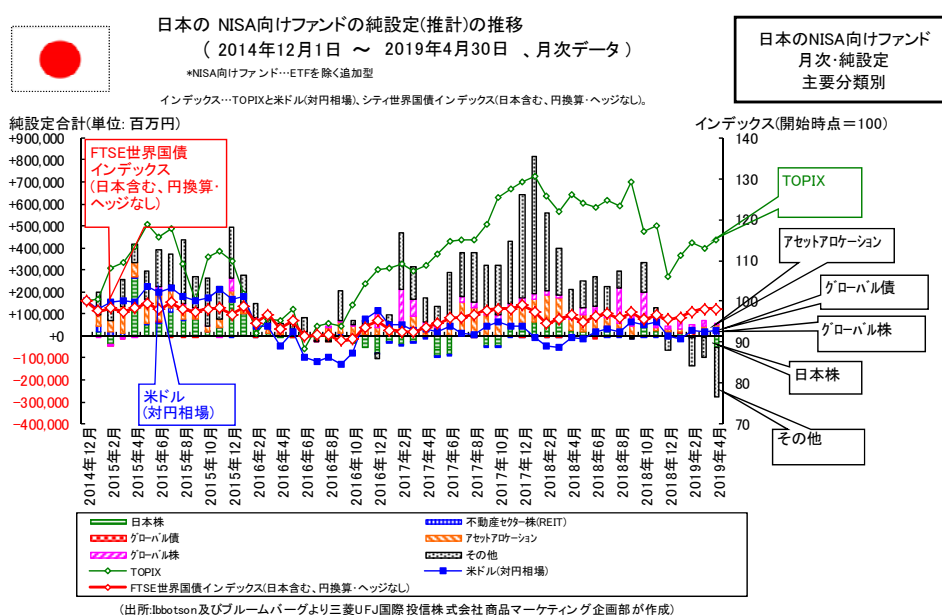


※2: NISA 向けファンド…

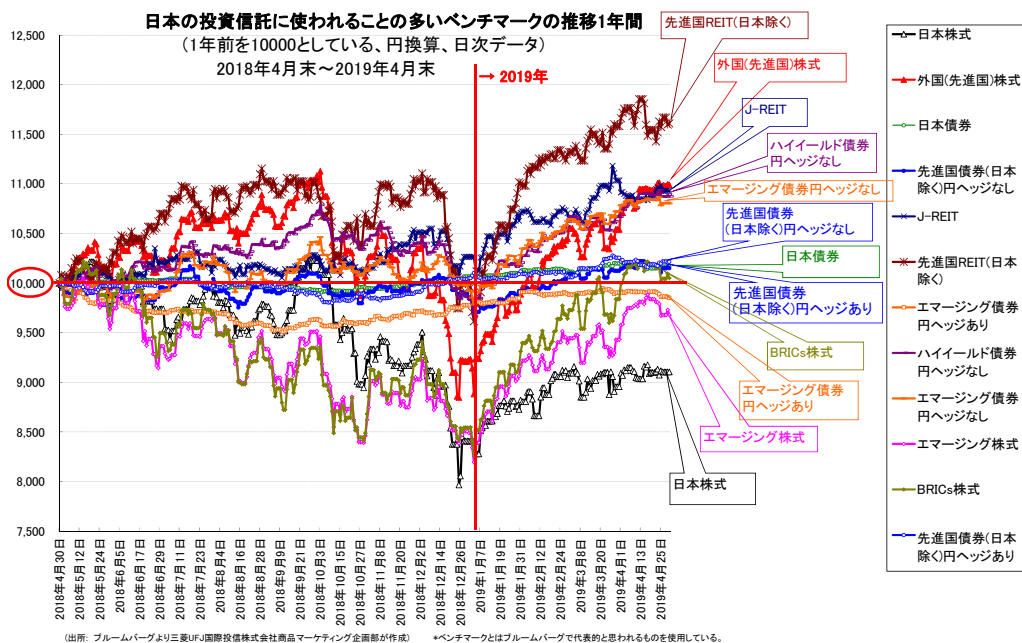
投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。日本証券業協会は「NISA制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等はNISA制度を十分に利用できない場合がある」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」とも言っている(URLは後述[参考ホームページ]②参照)。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2019年4月30日時点で2181本となった。



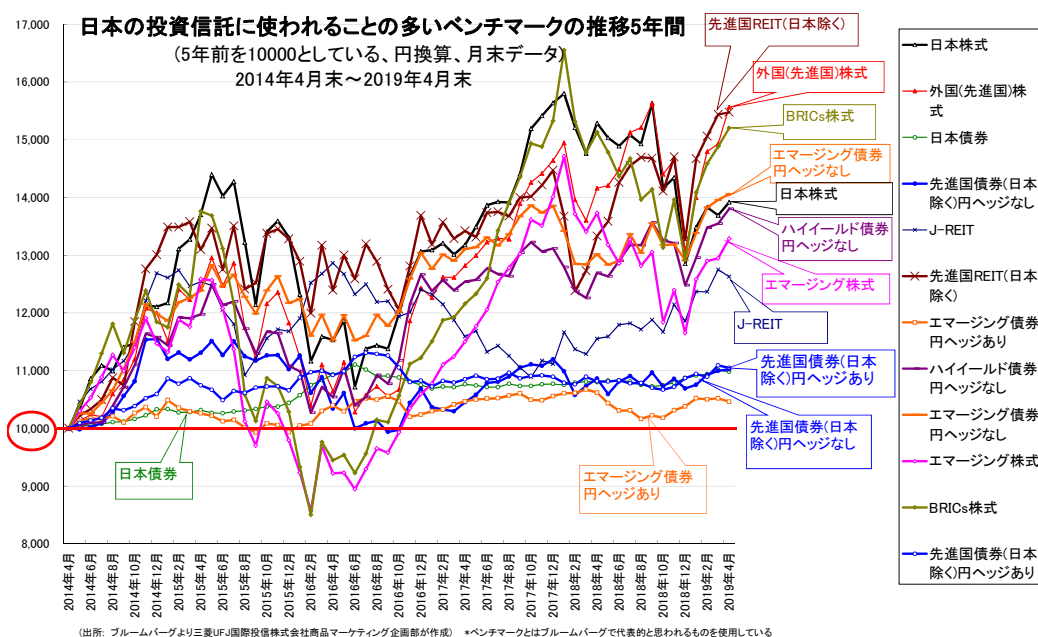
NISAがスタートして以来最大の純流出となった新規投資家を投資対象(主要分類)別で見る。既存投資家と思われる国内投信全体と同じ分類を用いると、2019年4月の純設定1位はアセット・アロケーションその他(前月3月11位)、2位はヘルスケア株(前月3月まで2カ月連続3位)、3位はアセット・アロケーション慎重型(前月3月まで2カ月連続4位)、4位は日本マネー・プール(前月3月も14位)、5位は不動産株(前月3月8位)。主要分類別に純設定の推移を見たのが下記グラフだが、「アセットアロケーション型」全体では、最新4月に+315億円と前月3月(+131億円)を上回り、2018年9月(+406億円)以来の大きな純流入。4月に大きな純流出となった「その他」だが、ここには2017年初頃から流入の始まったAI・ロボ関連ファンドを中心とするテクノロジー株等が含まれる。テクノロジー株は2018年終わり頃から流出、4月は-1494億円と3月(-772億円)から流出額は倍増。エマージング株は-348億円と3月(-149億円)を上回り8カ月連続の純流出。日本株は4月に-533億円と純流出加速傾向(←3月-92億円←2月-84億円)。ヘルスケア株、日本マネー・プール、不動産株は「その他」に、アセット・アロケーションその他および同慎重型は「アセットアロケーション型」に含む※1)。



下記は日本の投信に使われる事の多いベンチマークの2019年4月末までの1年間のパフォーマンス推移である。1年間のパフォーマンスは高い順に、先進国REIT(日本除く)、外国(先進国)株式、J-REIT、ハイイールド債券円ヘッジなし、エマージング債券円ヘッジなし、先進国債券(日本除く)円ヘッジなし、などとなっている(*1年前を10000としている、円換算、日次データ)。外国(先進国)株式は、1年間のパフォーマンスで先進国REIT(日本除く)に次いで2番目に高かったが、5年や2019年1月末からの3カ月、2019年4月の1カ月間では下記のベンチマーク中、最も高かった。日本株は5年のパフォーマンスで下記ベンチマーク中、5番目に高かったが、1年や2018年10月末からの半年では最低、2019年1月末からの3カ月では下から6番目となっている。



下記は5年のパフォーマンスである。5年間のパフォーマンスは高い順に、外国(先進国)株式、先進国REIT(日本除く)、BRICs 株式、エマージング債円ヘッジなし、日本株式、ハイイールド債円ヘッジなし、などとなっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



投信フロー最新動向～つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)はグローバル株～

最後に、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)の純設定も見る(*つみたて NISA 適格投信なので、つみたて NISA 以外で購入された分も含む、ETF を除く～つみたて NISA 適格投信については後述[参考ホームページ]①参照)。

純設定は、最新 2019 年 4 月に-367 億円と、つみたて NISA が始まった 2018 年 1 月以降で初の資金純流出となった。このつみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)を投資対象別で見ると、最新 2019 年 4 月の純設定 1 位はグローバル大型株(3 ヶ月連続 1 位)、2 位は米国大型ブレンド株(前月 3 月 4 位)、3 位はアセットアロケーション慎重型(前月 3 月 5 位)、4 位はアセットアロケーション柔軟型(前月 3 月 7 位)、5 位はアセットアロケーション積極型(前月 3 月 2 位)だった。日本株は 2019 年 2 月以来の純流出だった。

以上、NISA で何が買われたかについて既存投資家、新規投資家、つみたて NISA 投資家の順に見てきた。結論として、2019 年 4 月に NISA で主に買われた投信はアロケーション型で、つみたて NISA 投資家にはグローバル株も人気だった。

もちろんこれは今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URL は後述[参考ホームページ]③参照)が多いと思われる NISA 等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

①2019 年 4 月 28 日付日本経済新聞「NISA5 年 投信、指数連動にシフト 買い付け額トップはみずほ FG 株」…
「<https://r.nikkei.com/article/DGXMZ044325300X20C19A4EA3000?type=my#AAAUgJwMA>」、2014 年 12 月 8 日付日本版 ISA の道 その 83「NISA 元年も残り 1 カ月を切る中、NISA で何に投資する?先月人気だったのは既存投資家がグローバル債、新規投資家がアセットアロケーション柔軟型やグローバル債、ネット証券で REIT と日本株とグローバル株!!」…

「<https://www.am-mufg.jp/text/141208.pdf>」、つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am-mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」、2018 年 12 月 20 日付金融庁公表「NISA 口座の利用状況に関する調査結果の公表について平成 30 年 9 月末時点」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20181214-1.html>」、2018 年 7 月 17 日付日本経済新聞「つみたて NISA、3 分の 1 がネット証券で口座開設」…
「<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ032902920S8A710C100000/>」。

②2019 年 4 月 26 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」。

③2018 年 3 月 7 日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017 年」…
「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー…「<https://www.am-mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・ TOPIX (東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・ FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・ 「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。